創刊号　2007年７月

北海道大学 Hokkaido University
Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査室ニュースレター

埋蔵文化財調査室とは

北海道大学構内の地下に眠っている遺跡の調査・保存・研究にかかわる業務に携わっています。

ホームページ：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~r16749/maibun.html

薬学部研究棟地点での発掘調査が始まる

▲薬学部研究棟地点での発掘調査の様子　黒土を慎重に掘り下げていくと、約千年前の擦文土器が出土してきました。赤い串はその擦文土器が出土したポイントを示しています。

現在、薬学部薬草植物園の北西箇所で、埋蔵文化財調査室による発掘調査が行われています。発掘は、薬学部の研究棟が新たに建設されることに伴い実施されることになったものです。約1000㎡を調査対象とした発掘調査は、2007年の６月にはいってから本格的に始められました。現在までの調査の結果、擦文文化の集落がこの場所には残されていることがわかってきています。

▲地中から擦文土器が発見されたときの状況

▲発掘調査遠景　北西より

発掘調査では、地下に埋まっている埋蔵文化財を慎重に掘り出し、詳細な記録をとっていくことが必要となります。人為的に動かされたと思われる表層の土をバックホーなどで取り除いたあと、自然に堆積した土を手作業で根気強く掘り下げていくと、現地表下約90cmの深さに擦文文化の頃に堆積した黒色土層が姿を現してきました。

現在、この黒色土層中の調査をすすめているところです。6月27日現在で、この地層から擦文文化（約1100年前）の土器片が150点ほど発見されています。また、竪穴住居址と考えられる黒色土層の落ち込みも見つかっており、この地点が擦文文化の集落であったことが明らかとなっています。竪穴住居址の近くには、かつて河川が流れていたと思われる痕もあることから、擦文文化の集落の周囲を取り囲んでいた自然景観も詳細に把握できそうです。

調査は9月まで続けられる予定です。擦文文化の頃の旧地形を含めた自然景観と集落との関係を把握することで、当時の生活に迫りうる調査成果が得られるものと期待されています。

コラム　擦文文化とは？

北海道を中心にして、およそ7世紀から13世紀頃にかけて広がっていた文化のことです。土器の表面に擦った跡がみられることが、名前の由来です。擦文文化を残した人々は、河川の河口部や内陸の小河川沿いに集落をかまえ、カマド付きの竪穴住居に暮らしていました。主要な利器は、石から鉄を素材とするものに移り代わっており、アワ・ヒエなどの雑穀農耕や河川でのサケ・マスの漁撈活動がさかんにおこなわれていたことがわかっています。

▲擦文土器　坏（つき）と呼ばれるもの

埋蔵文化財調査室の展示室の紹介

▲展示室に並べられている擦文土器　恵迪寮地点から出土したもの

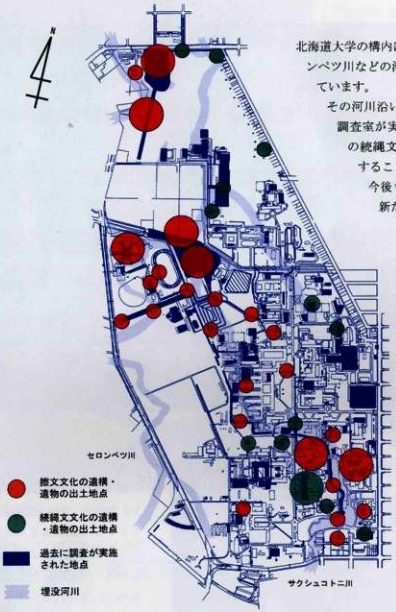
▲石囲い炉址　人文・社会科学総合教育研究棟地点から出土したものをかたどったもの

埋蔵文化財調査室のなかには展示室も設けられています。展示室には、北大構内のさまざまな調査地点から出土してきた、土器や石器、炭化植物種子、木製品などが展示され、公開されております。いずれも貴重な資料ばかりです。展示室は北大の総合博物館の授業で利用されている他、展示資料は考古学を専門とする学生・院生の研究対象ともなっています。

展示室の見学

年末・年始の休みを除く平日（月～金曜日）午前10時から午後5時まで、埋蔵文化財調査室の展示室は学内外の方々に公開されております。気軽に見学にお越し下さい。

北海道大学構内（札幌キャンパス）の遺跡分布



北海道大学の構内には、サクシュコトニ川やセロンペツ川などの河川が流れていたことがわかっています。

その河川沿いからは、これまで埋蔵文化財調査室が実施してきた調査により、多数の続縄文文化や擦文文化の遺跡が存在することが確認されています。

今後も、調査の進展によってさらに新たな発見があることでしょう。

編集後記

埋蔵文化財調査室ニュースレターでは、今後とも調査室がおこなう発掘の速報や活動内容の紹介をおこなっていきたいと考えております。ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。（高倉）

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター創刊号
発行：北海道大学埋蔵文化財調査室
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目
電話：011-706-2671　ファックス：011-706-2094